
アルス国際製靴学校研修体験記

(平成26年9月1日～11月28日)

MISAWA & WORKSHOP 三澤 友貴 絵
株式会社 Seady 岡 麻里 絵

1 研修課題

- (1)靴の構造、靴種、製法、製作工程の理解
- (2)靴の企画から生産までの過程、技術の理解
- (3)パターンメイキング（アッパー、ライニング）の理解
- (4)ラストイング実習（つり込み、底付）
- (5)革見本市、靴見本市、ヒールメーカー、ラストメーカー、製造メーカー視察
- (6)先端技術、市場動向セミナーの受講、現状把握
- (7)各国研修生との靴に関する情報交換、交流

2 研修内容

(1)授業スケジュール

パターンメイキングコース

期間：9月1日（月）～11月28日（金）

全13週

第1週：理論 靴見本市視察

第2週～10週：理論・型紙作成

第2週：革見本市視察

第7週：FOOTWEARTECHNOLOGY
セミナー

第8週：工場視察（木型、ヒール計2社）

第9週：CREAMODA靴資材見本市視察

第10週：プロトタイプ、コンペ用デザイン
画作成

第11週：工場視察（メーカー2社、ラス

ティング計3社）

第11週～第12週：卒業制作、工場視察
（フィニッシャー1社）

第13週：卒業試験・コンペ表彰式・卒業式

(2)週間スケジュール

月曜日～金曜日 9：00～13：00

14：00～17：00

土曜日、日曜日、祝日 休講

(3)授業の進め方

①授業の進め方は、長期に亘る体系的な
研修と反復練習が基礎となっている。

②実技の進め方

・講師が制作上の注意点等を説明しながら型紙を作成していく。

スクリーンに映し出される講師の手順を確認しながら進められた。

・受講生は、講師の手順に沿って各自型紙を作成し、完成したパターンについて講師陣によるチェックを受けた。完成したパターンは必要に応じて提出した。

・パターンメイキングコースの最終週には卒業試験が行われた。

（プロトタイプのフィッティングチェック、実技、筆記、面接）

(4)講義内容

①理論（靴及び靴製法に関する様々な知識の習得）

・靴の種類、製法、構造（製法別特徴、

用途及び留意点)

- ・木型プロポーション (部位別名称、数値測定法公式)
- ・インターナショナルサイズ (フランス式、アメリカ式、イギリス式サイズ換算法)
- ・アッパーエッジの処理方法
- ・皮革 (種類及び鞣し方法)
- ・基本的ルールの学習
- ・各国の工場事情

②靴種に沿ったパターンメイキング

- ・ダービー、オックスフォード、パンプス、ローファー、サンダル、ブーツ、モカシン、子供靴
- ・靴種ごとに仕様封筒を作成 (型紙、紙アッパー、ライニング、裁断型を作成封筒に入れ提出)

③見本市視察

- ・MICAM
 - ・LINEA PERRE
 - ・CREA MODA
- 講師陣の引率により、様々なメーカーのブースを視察

④工場見学：ミラノ市郊外

- ・ラストメーカー (FORMITICIOROMAGNOLO社)
- ・ヒールメーカー (ELITE PLASTIC社)
- ・靴メーカー (CHANEL社、calzature solazzo社)
- ・フィニッシャー (Kenda FARBEN社)

⑤コンペ用デザイン画作成

- ・テーマ：Gea Gomma社ナチュラルラバーソール (ウエッジヒール) に似合う婦人靴
- デザイン画を各自1～5点製作し、1点のみ提出。

⑥卒業制作

- ・木型、ソール、ヒールを自由に選び、自らのデザインでプロトタイプを作成

⑦卒業試験

- ・筆記 (イギリスサイズ、アメリカサイズ、フランスサイズの換算方法、型紙作成の基本ルール、靴種の判別など)
- ・実技 紳士靴か婦人靴を選択し、くじ引きにより決定するデザイン画について型紙を作成
- ・面接 講師4名による、作成した型紙、筆記試験、プロトタイプおよび講義の内容についての質疑応答

3 研修成果

イタリア、ミラノにあるアルス国際製靴学校のパターンメイキングコースを受講し、3か月(9月1日～11月28日)靴に関する全般的な知識とパターンに関する技術の研修を受けました。

クラスメートは25名(女性15名、男性10名)、国籍はイタリア、フランス、オランダ、ペルー、アメリカ、イスラエル、バハマ、コロンビア、南アフリカ、ドイツ、イギリス、中国、台湾、インド、マレーシア、ドバイ、日本。クラスメートの約半数が靴業界に従事し、製造、生産管理、企画、デザイン等と職種は多岐に渡りましたが、多くの場面で彼らと靴に関する意見交換ができたことは大変興味深く、貴重な経験となりました。

授業は英語とイタリア語で進められました。フランス語、ドイツ語、中国語を話せる講師がおり、希望によりこれらの言語で授業を受けることもできます。

第1週目は靴に関する全般的な講義が行われました。靴種とそれらの構造と特徴、製法、木型、革に関する基礎的な知識から世界の生産状況に至るまで、動画や写真、時には実物を手に取りながら進められました。講義の中では、イタリアにあるタンナーの作業風景を動画ではありませんが見るこ



写真1 革についての講義



写真2 実習風景

ができたこと、またヨーロッパ圏とアジア圏にある各々の工場の製作状況を知ることができたことが特に印象的でした。

第2週目以降、パターンメイキングの実習が始まりました。紳士靴から始まり、基本的な靴種のパターン製作を終えると婦人靴、子供靴、そしてアシンメトリー等特殊な靴種の順に実習が行われました。

授業は毎回約1時間の講義から始まりました。この講義は1週目に受けた講義の項目からいくつかを取り上げ、より実践的な内容となっていました。講義の中では、パタンナーでもある講師により、工場での生産にあたってのコスト、作業時間のコントロールについて、またその考えをどうパターンに落とし込むのか、更にはデザインを考える上の市場の捉え方が繰り返し話され、クラスメートと共に考えながら学ぶことができました。

実習では、まず講師による実演が行われ、その後、各自同じデザインについてパターンを製作していきます。1日約1つの靴種について2、3種のデザイン画を基にパターンを製作しました。製作中、講師が各々の作業を見て回るため、疑問や確認箇所はその都度解消することができましたし、パタンナーとして活躍する講師からデザイン

線の修正を受けることも大変勉強になりました。毎週月曜日には『月曜テスト』が行われました。前週に学んだ靴種について2、3種のデザイン画が提示され、各自パターンを製作します。製作後は、講師による実演が行われ、手順や要点の確認を行うことができました。提示されるデザイン画も前週の要点が集約されたものであるため、しっかりと復習ができる良い機会となりました。毎週金曜日には仕様封筒を製作し、提出するという課題がありました。当日提示されたデザインについて、紙アッパー、ライニング、裁断型を製作し、封筒に靴のスケッチとその仕様の詳細を記入した上で全てを提出します。仕様封筒も後日講師による各自へのフィードバックがありました。月曜テスト、仕様封筒双方で、自分の苦手な点を再認識しながら解消していったことは大変大きな収穫でした。そしてラインの引き方、カッティング等、基本的なことを改めて繰り返し練習できたこともとても実になる経験だったと思います。

第10週目にはプロトタイプとコンペ用デザイン画の製作、パターン製作を行いました。プロトタイプは木型、ソール、ヒールを準備された中から選択して、各自デザインを起こし、講師のチェックに通った者か



写真3 岡さん3位入賞

ら、これまでの実習で習得した内容を踏まえてパターン製作を行いました。デザインのチェックの際には、木型に合ったデザイン、デザイン線の美しさの他、実際に生産する場合にどういった問題点があるかを含め講師からアドバイスをいただきました。革を裁断した後、熟練のイタリア人職人に製甲を依頼しました。

コンペティションはGea Gomma社ナチュラルラバーソールのウェッジヒールに似合う、秋冬用婦人靴をデザインするというものでした。岡さんのデザインが最終選考に残り、見事3位入賞という結果になりました。今回のコンペティションでは、岡さんを含め、クラスメートの素晴らしいデザインから大変刺激を受けました。求められる趣向を汲み取りつつ、且つ素材を魅せるデザインを生み出す、これから引き続き力を注ぐべき点だと強く感じました。

第11週からはミラノ郊外にあるラストイングの工場へ通い、つり込みから底付までを職人が行うのを見学し、マシンの操作や工程で発生するトラブルの対処方法等を実践で経験することができました。職人は皆30年以上の経歴を持つベテランで、彼らの横に立ちながらこれまでの経験から培った知識を見聞きでき、また、自身の仕事についても親身に助言をいただいたことはこれからの励みとなるものでした。

課外授業では世界有数のブランドである



写真4 ラスティング工場にて

シャネルの靴メーカーを訪れる機会に恵まれました。中では作業の細分化、そして細部までマニュアル化された作業工程、また全工程を工場内で行うことにより、徹底したクオリティコントロールが行われていました。多くの製品を生産しつつも、ハイブランドとしての一定の品質を保つための厳しい管理体制を目の当たりにしました。

他にはヒール工場、ラスト工場、底付を専門に行う工房、フィニッシャーへ視察に行くことができました。ヒール工場、ラスト工場は共に数多くのプロトタイプを所有し、イタリア有数のブランドに関わる製品を生み出していました。

ラスト工場では研究室が設けられ、サンプル製作のための木型切削が進められているところでした。いずれの工場でも、数多くのブランドと製作にあたった経験と知識を生かし、誇りを持って自らの技術を注ぎこむ職人の姿が印象的でした。

また、学校外においては国際靴博物館をはじめとして数々の美術館を訪れ、時には半世紀以上前に製作された靴を手に取り、当時の技術を肌で感じる事ができました。また、ミラノ近郊の街に出向き、歴史ある街並みに触れ、多くの美術作品に触れることができたことは、製作を続けるものとし



写真5 ラスト工場、研究室



写真6 センピオーネ公園

て大きな財産となりました。

滞在先のレジデンスは学校と同じ建物にあり、住宅地の中にあるため静かで、暮らしやすい環境でした。近くにはセンピオーネ公園という大きな公園があり、クラスメートとジョギングや散歩を楽しむことができました。クラスメートとは授業はもちろん、食事や休日等多くの時間を共にし、拙い英語ではありますが多くのことを話す中で、より広い視野とコミュニケーションを楽しみながら、自らの主張を表現していく様子には刺激を受けました。クラスメート、講師陣や職人と今後も交流を続け、これからも刺激を受けながら、また自らも刺激を与えられるよう製作に取り組んでいきたいと思います。

今回の研修の中で得た多くの新しい知識と体験を通し、日本の靴業界の発展に貢献できるよう、自身の技術の向上と新しい製品の開拓に尽力していきたいと思います。

この事業が末永く継続され、多くの方がこの素晴らしい体験が受けられることを希望いたします。最後に、この機会を与えてくださった東都製靴工業協同組合、東京都産業労働局、ARS派遣事業に参加された先輩方の皆様に深く感謝申し上げます。



写真7 リチャード先生と岡、三澤



写真8 クラスメートとの集合写真